

PRESS RELEASE

2022年6月8日

福島駅東口地区市街地再開発組合

『福島駅東口地区第一種市街地再開発事業』事業計画変更認可のお知らせ JR福島駅前の新たなランドマークとなる商業施設・公益施設・住宅等の複合駅前再開発

福島駅東口地区市街地再開発組合（以下「当組合」）は、「福島駅東口地区第一種市街地再開発事業」（以下「本事業」）を推進しております。このたび6月8日に、事業計画の変更について福島県の認可を受けましたことをお知らせいたします。



外観パース（今後変更となる可能性がございます）

1. 本事業の概要

事業名	福島駅東口地区第一種市街地再開発事業
施行者名	福島駅東口地区市街地再開発組合
所在	福島県福島市栄町 5,8,9,10
施工地区面積	約 2.0ha
主要用途	商業、福島駅前交流・集客拠点施設、オフィス、ホテル 住宅、駐車場
交通	J R東北新幹線・東北本線「福島」駅徒歩1分（駅⇄複合棟）
住宅戸数	約 108戸（予定）

※記載内容は予定であり、今後変更となる可能性がございます

PRESS RELEASE

2. 計画地と開発コンセプト



本事業は、福島市が策定した『風格ある県都を目指すまちづくり構想』の中核事業として再開発事業を実施し、福島市の『福島駅前交流・集客拠点施設』と一体的に整備し、県都にふさわしい広域的な拠点となる施設整備を官民連携により取り組みます。当組合は、上位計画や地域特性を踏まえた開発コンセプト『官民共創による「県都ふくしま」にふさわしい「持続性のある賑わい」づくり ～南東北の交通結節点と駅前立地を生かした広域交流空間の形成～』を実現するため、下記の共創空間の整備を予定しております。

共創空間1：【にぎわい空間】の共創

- ・福島駅前のランドマークとなり自然と「にぎわい」の生まれる建物を目指します。
- ・駅前通りをシンボルストリートとして位置付け、歩行者による賑わいを創出するため、路面に集客力の高い商業機能を配置します。

共創空間2：【つどい空間】の共創

- ・学会会議やコンサートなどさまざまな「つどい空間」の創出を図ります。
- ・市民の文化芸術活動を促進する施設を目指します。

共創空間3：【いこい空間】の共創

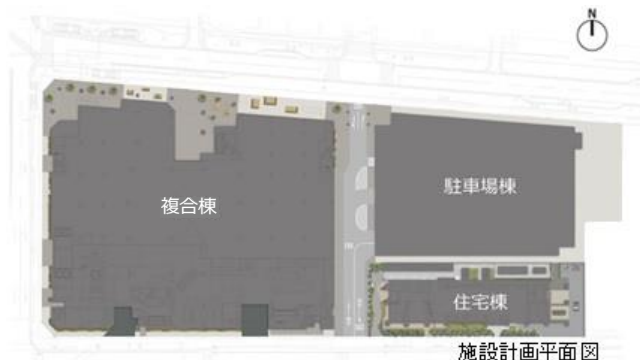
- ・こどもからお年寄りまで幅広い世代が日常的にまちを楽しみ、いこいの場となるパブリックスペースを目指します。
- ・駅前広場からまちなかへと誘導するような各機能との連携と、効果的な動線計画により回遊性の向上を目指します。

共創空間4：【すまい空間】の共創

- ・多様な都市機能が集積した「まちなか」への居住を促進する分譲住宅を提供します。
- ・安心、快適な居住機能を支える生活利便施設や駐輪場を整備し駅前の利便性をサポートします。

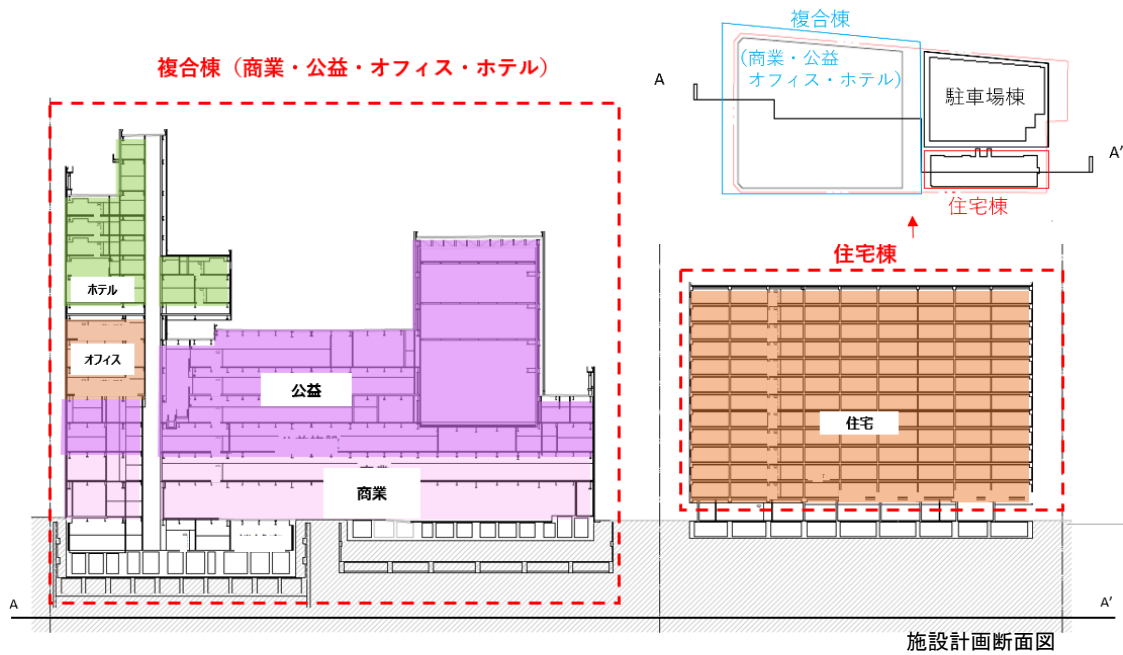
3. 施設計画の概要

開発コンセプトを踏まえ、施設建築物は商業・福島駅前交流・集客拠点施設、オフィス・ホテルからなる複合棟、住宅棟、駐車場棟の3棟構成を予定しております。



施設北側 複合棟外観パース
(今後変更となる可能性があります)

PRESS RELEASE

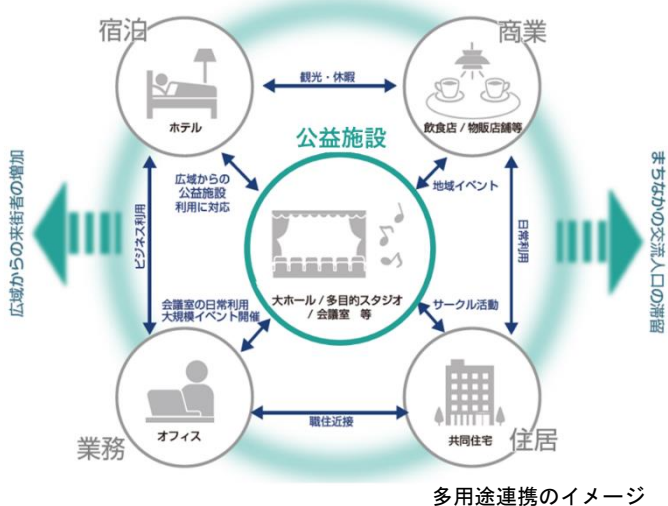


4. まちなか交流の創出

再開発による以下の効果により、広域の来街者とのまちなか交流の創出が期待されております。

①多用途連携

公益施設を中心に多様な用途を連携させ、各用途の相乗効果を引き出します。例えば、公益施設（ホール）でのイベント後には観客がホテルに宿泊、施設内の商業施設を含む駅前通り商店街にて飲食し、地元の人と交流するシーン等が想定されます。

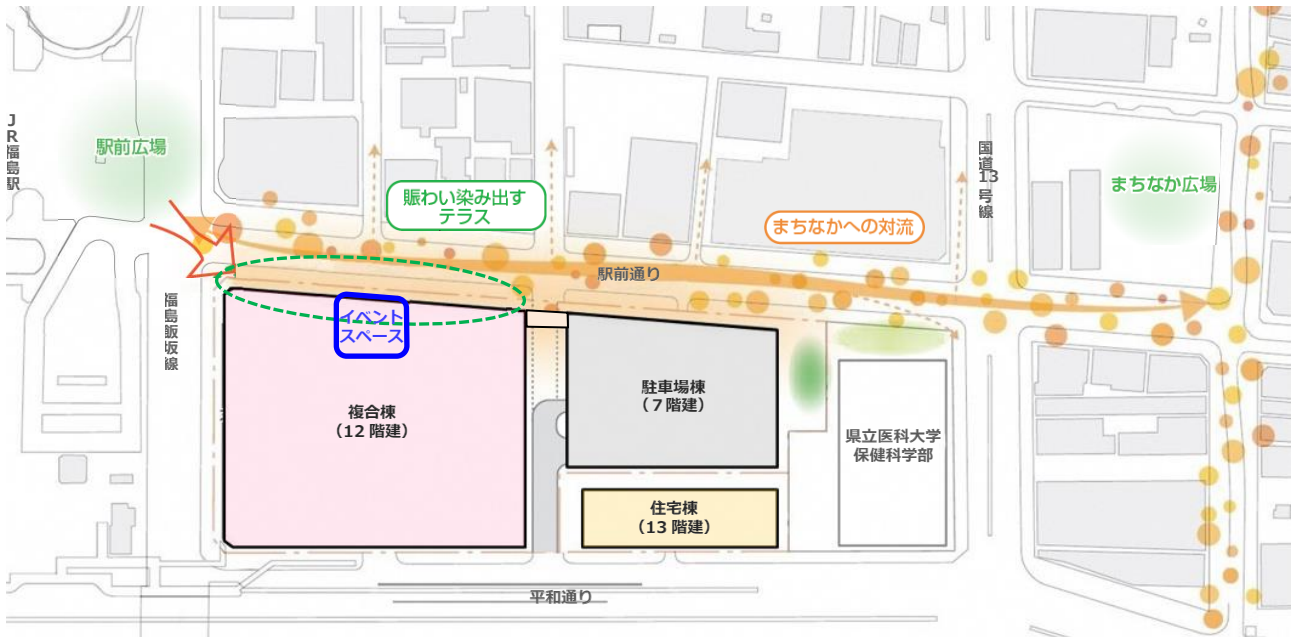


施設南側 住宅棟外観パース
(今後変更となる可能性がございます)

PRESS RELEASE

②共用空間

人を引き込むエントランス広場と、賑わい染み出すテラスによりまちなかへの対流を創出します。



※現在計画中的のものであり、今後変更となる可能性がございます。

5. これまでの経緯と事業スケジュール

2020年3月	都市計画決定
2021年7月	再開発組合設立、事業計画認可
2022年6月	事業計画変更認可
2022年7月	解体工事着手（予定）
2022年9月	権利変換計画認可（予定）
2023年度	新築工事着手（予定）
2025年度	竣工（予定）
2026年度	グランドオープン（予定）